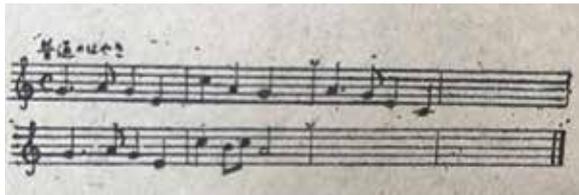


あのころの入試問題を見てみよう！ 第2弾 新制高校設立当時の入試問題

校内の歴史を探る中で、卒業された先輩方よりの「入試は5科目以外もあった」というお話を受けて、今回は「必須全教科」だった新制高校設立後の昭和28年度入試の問題を採り上げてみました。また、その時代の背景について、朝日高校の先生に解説をしていただきました。現在では聞き慣れない「職業」の問題など、自分だったらどんな解答をするのか考えてみてはいかがでしょうか。

■音楽〔検査2乙〕

次の楽譜の空白のところへ適当なメロディー（旋律）を続けなさい。



(昭和28年3月10日付 山陽新聞より)

■図画工作〔検査2乙〕

人体の一部（たとえば手など）を鉛筆でスケッチしなさい。

■職業〔検査2乙〕

A君は機械のことが好きなので、S高等学校の機械課程へ進学したいと思い受持の先生に相談したところ、「家の事情さえ許せば、学区内でもあるし、それがいちばんいいのだが。」と言われた。

家へ帰って、このことを父に話すと「S高等学校は学区内であっても遠いから、とても通学できないし下宿したら金もかかるから、近いH高等学校の普通課程にするのがよかろう。」ということだった。

A君が進学について思い悩んで「どうしたものだろうか。」とあなたに相談したとしたら、あなたはA君にどんなに答えますか。



朝日高校内山下校舎
(昭和27年2月25日付
山陽新聞より)

■保健体育〔検査2乙〕

ラジオ体操第一は、1番から13番までありますが、そのうち1、3、5、6、11番の運動がかいてありません。それについて文章で答えたいところは下のA欄に、図で答えたいところはB欄にかき入れなさい。(A欄、B欄略す)

(2) 腕を横に振り、ひざを曲げ伸ばしする。

(4) 足を横に出し、腕を横と斜め上に振りながら胸をそらす。

(7) 足を横に開き、両手を横に振りながら体を横にひねる。

(8) 足を横に出し、腕を上下に伸ばす。

(9) 足を横に開き、体を斜め下に曲げ、体を起して胸をそらす。

(10) 腕を振り回しながら体を曲げ回す。

(12) 腕を横に振り、ひざを曲げ伸ばしする。

(13) 腕を前から上にあげ横からおろして深呼吸する。



昭和二十八年年度 県立高校第一学 年生進募集定員			
学校名	種	定員	定比
岡山朝日	普通	438	36%
岡山福山	普通	458	36%
岡山西	専攻科	180	
	機械	120	
岡山東	工業	76	
	建築	48	
岡山南	普通	309	
岡山西	普通	258	

(昭和28年3月10日付
山陽新聞より)

《解説》

昭和28年度の学力検査は3月9日(月)に実施された。検査は5つ。検査1甲が社会・国語・職業、検査1乙が保健体育・音楽・図画工作・理科・数学で、これはいずれも記号問題であった(各75分)。検査2甲・2乙は検査1と同じ教科を記述解答するもので(各40分)、この年度から導入された。さらに記号解答の検査3(英語)も実施された。戦後の新教育の成果を確かめる意味でも、検査対象が中学校の必修全教科となることは不思議なことではなく、思考力を問う記述解答方式の出題は、現在の高校教育の方向性や、大学入試改革とも相通じる先進的な取り組みでもあった。

しかし、この時期、朝日高にとっては受検教科や出題方法よりも、総合選抜制度における受検生の振り分け問題の方がより深刻であった。総合選抜制度は、戦後最初の本格的な入試が実施された昭和25年から同一学区内に同じ学科をもつ高校がある場合に導入されたが(朝日高と操山高など)、未だ基準や手順が確立されておらず、毎年問題化していたのであった。

(後神 泉先生)